

水中環境計測機流失事故に対応する 手段としてソキアR80D導入を検討

船舶等のライトブイ巻き込みによる計測機器の流失事故が増加し、利益面への圧迫、さらには、損害保険の加入関係にも影響が出てきている。

当社のADCP1200kHz、600kHzの2基を所有し、底上設置業務の技術協力を推進していることから、流失防止の有効的手段を構築する為、対策会議を開き、検討を重ねた結果、高精度のDGPS導入案が浮かび上がってきた。

ソキアR80Dは±1m以内の精度を有し、ライトブイを設置しなくてもピンポイントで底上設置、揚収が可能になり、航路上の海域における底上設置には特に有効であるのではという意見が多かった。

ADCPの沿岸曳航観測において、±5m誤差のDGPSを使用しているが、狭い川幅の河川においては、より精度の高いDGPSの活用が望まれる場合があり、多様な業務に役立つ可能性が高いとも考えられる。

以上の観点から、R80Dの導入を視野に入れたテスト観測を7月度に複数回実施する事を決定した。

実行リーダーは、河川海洋調査課の小谷係長で、同調査課全員の研修を兼ねてADCPオペレーション技術の向上を目指す計画である。

近年、海洋環境測定
の為の計測機底上設
置業務において、航行

社員研修講演会が終了

去る6月24日15時30より17時迄、西中島甲東会館大会議室で、社員研修講演会が行われ充実の内に終了した。

同業界に詳しい講師を迎えて「企業の発展と自己実現」をテーマに、顧客満足、社会貢献、従業員満足のサイクルを、どう循環させて行くかを確認し合う好機となった。

年2回の講演会を恒例の行事にするとの社長発表もあった。



[5月・6月度技術協力結果]

5月

潜水計画課

- ・竹野環境省施設 水中VTR設置1件
- ・遠州灘 波高計交換・点検1件
- ・滋賀県下水道施設 酸欠作業区域監視1件

河川海洋調査課

- ・海洋モニタリング調査6件(水質、流況等)
- ・河川モニタリング調査1件
- ・ADCP曳航観測オペレーション3件
- ・潮間帯付着生物潜水目視調査5件
- ・底生生物潜水目視調査1件
- ・河川環境 流量観測1件

6月

潜水計画課

- ・大阪市内 水中鋼材溶断業務2件
- ・大阪市内 水中浚渫業務2件
- ・淀川大堰 搜索及び回収業務1件

河川海洋調査課

- ・河川 深浅堆積層測量、底質 コア採泥1件
- ・ADCP曳航観測オペレーション4件
- ・潮間帯付着生物潜水目視調査3件
- ・底質 コア採泥1件
- ・海洋モニタリング調査5件(水質、流況等)
- ・河川環境 流量観測2件
- ・都市計測業務 地下道傾斜計設置業務1件



最近の動向

当社の最近における
業務的傾向は、急激な

変化を遂げている。環境調査においても空間情報システムの重要性が問われ、GIS及びAUTOCADの活用が必須となってきたといえる。

また、人材の派遣のみならず、各種オペレーションとその解析業務が出来る事こそ、顧客に喜ばれる最低条件であるといっても過言ではないだろう。

幸い、ADCPのオペレーションとデータ解析は、有効なレベルに達してきているし、AUTOCADのオペレーターも複数育ってきたようだ。

特に、超広角一眼レフの水中カメラは業界の先端を行く当社自慢の設備群であるし、編集ソフトもいい出来だ。

空間情報とその映像をドッキングさせた報告書は、すでに好評を頂いているが、より一層の満足をより多くの顧客に提供できるよう、努力を惜しまず励んでもらいたいと考えている。小さな一流を目指そう。(代表取締役)

順調な伸びを示すAAQ-1183の使用状況

今年1月に、多項目水質計AAQ-1183を2台導入した。旧型クロロテックと比べると非常にコンパクトで、メンテナンスも簡易であり、海上調査には非常に適した新型となっている。

まずは顧客からのリース要請が発生し、次に計測器と技術者のセットでのオーダーが増加して、順調な使用状況を呈している。ケーブルは70mと、深深度の使用にも耐え得る。

また、船上ユニットはプリンターとハンディそれぞれ一台ずつの構成でロケーションごとに使い分けが可能だ。

今後とも、顧客に貢献できるシステムを整備し続けていきたい。

